

< 先週の聖書から >

村上定幸

【**レプラ**】“ツアラアト”等と読まれ、らい病のことです。新約聖書では“**λεπρά**”文字通りに、病名としてのレプラ=らい病を意味する言葉です。主はこの、汚れと罪の証しとして人々を恐れさせていた“らい病”をも救い、人々の救いこそ神の意志であることを示されました。他の中風という言葉や“足なえ”“盲人”と同じように、長い長い間、人々を苦しめていました。病であるとともに、汚れをも、おそらくはより強く、物語っていました。“この言葉は大きな差別・人権侵害をいまの時代にももたらすものであり、聖書からなくす”という幾つかの視点からの指摘がなされてきましたが、説教者かららい病についてのみ言葉を奪うべきではありません。どんな言葉に置き換えようとも、盲人を視力障害者と置き換えるのと同じで、“レプラとは一体何ですか”と質問された瞬間に、“それはらい病（と記されている病でハンセン氏病かもしれない）”と答えることにしかならないのです。反対に多いに語るべきでしょう。

【**説教者による説教**】先週の説教は、脇先生によるものでした。聖書は、文字で書かれ、最善の力をもって訳された、今から相当昔の言葉です。説教者によって語られた時に神の言葉となるのです。また私の書いたものではありませんから、まずよくよくこれに聞かなければなりません。更に大切なことは、礼拝という場で、聞かれるということです。聞き手もまた、神の言葉を共に説教者と経験することになります。先週の説教は、一度しかありませんでした。すなわち、その時に相応しい神の力で、限りなく弱い我々を、主の救いにまで導くのです。

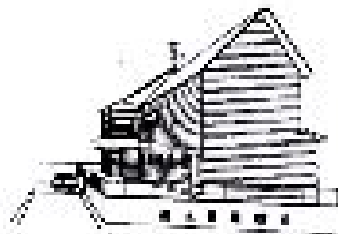
【**汚れた病の人**】先週の箇所記録されているらい病人は、“彼の嘆きと病を主に担って頂いたのです”。清められました。私たちがまず注意すべきことは、“無条件に”ということでしょう。“このようにすれば”というような条件は何一つありませんでした。生涯を汚れの中で過ごさなければならなかったかもしれない彼に必要なものは“御心でしたら癒して頂けるのです”と願うことでした。私たちも、山のような要求の中で暮らしているのでしょうか。しかし“全く清められたい”、一番大切なこと“清くされることによる解決”を主に願っているのでしょうか。

【**あかし**】しかし私たちは、主がしてくださったことを証せずには居られません。この記録にあるように、たとい“黙っておくように”と言われても、それはもう主がとっくにご存知のことですが、信仰者として証をするのです。癒しに臨まれた主のように大胆に、だったことでしょう。

【**担うイエス様**】病人が人目を避けていたように、主も、その大胆さを彼にお与えになり、彼にかわって御自身は“寂しい所”に追いやられることを、“良し”とされました。救いが成就されたというのは、十字架に至るまで、悲しみと罪を引き受けて下さった主の愛の力のことでしょう。

週報

2010年 9月 5日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042